

連載1 最近のKAIR
(神山アーティスト・イン・レジデンス)



秋の特別展「これまでとこれから2020」無事終了しました！

今年は、2008年招聘アーティストの安岐理加さんをお迎えし、リターン・アーティストプログラムを実施すると共にKAIRが所蔵する過去の作品を展示する特別展を開催しました。開催にあたって、みなさまにはご理解とご協力を頂き、深く感謝申し上げます。準備の様子から展示まで、たっぷり写真でご覧ください！



ニックさんの作品は展示以来7年振りの寄井座でお披露目となりました。
ニック・クリステンセン 『Kagami』2013 撮影：生津勝隆



ツーさんの作品は、陰影深い寄井長屋東と柔らかな光に満ちる豆ちよ焙煎所の二か所で展示しました。
ツー・キム・ヴー 『ミニチュアスペース』2012 撮影：生津勝隆



あべさやかさんは2013年招聘時に制作した作品に加え、2014年八戸での作品と今年神山で完成した新作を合わせて発表しました。
あべさやか 『やまやまくるくる』2013 撮影：生津勝隆



下分アトリエでは、瀬戸内の豊島を拠点に活動されている安岐さんのリサーチをもとに制作された映像とサウンドと共にご覧いただくインスタレーション作品が展示されました。期間中には関連イベントとして、杉田敦さん(美術批評/art & river bankディレクター/女子美術大学教授)をお招きしトークショーを行いました。
安岐理加 『その島のこと』2019 撮影：生津勝隆

準備風景・展示の様子



連載2 GVニュース

シェアハウス始めました！

ちょっとした出会いをきっかけにプロジェクトが始まっていくのが神山の面白さの一つだと自負していますが、またしてもそんなことから新規事業が始まりました。きっかけは、コロナ禍に届いた一通のアメリカ在住の学生からのインターン問い合わせメール。それがあれよあれよと転がり広がり、結果、半年も経たない間にGVでシェアハウスを始めることになりました(話はしより過ぎですが書ききれません)。コンセプトは、「若手起業家たちの夢の実現のサポートを通じて、この“家”に元気を与えていくこと」。詳しくは、英語になりますがWebサイトをご覧ください。早速入居者もほぼ決まり、すでに若いエネルギーで溢れ始めています。今後の展開がいろいろ楽しみです！



「森西ハウス」 <https://naomiawt.wixsite.com/morinishihouse>

表紙
「朔風弘葉」
撮影：生津勝隆

卑弥呼伝説や弘法大師の足跡が色濃く残る、高根山悲願寺。十一月中旬、雨乞いの滝水源が湧き出でる境内では、常夜塔の傍に紅葉が燃える様に色づく。



連載3 ほんのひろば

紅葉が少しずつ色褪せてきました。山の季節は冬へとめづっていきます。移ろいを眺めながら、暖かな部屋の中で本を読むのが楽しみな季節です。

絵本『りんごかもしれない』 作：ヨシタケシンスケ

ヨシタケさんの絵本はどれも面白いのですが、かも、かもが長く続いています。りんご1つをどこまでも考えていく内容に、思わず笑ってしまいます。

ハンドブック『冬芽』 解説：広沢毅 写真：林将之

庭の手入れをしていると、小さな芽ができていくのに気づきます。

この芽を見ていると小さなまま寒い冬を越していく忍耐強さにもいつも励まされます。

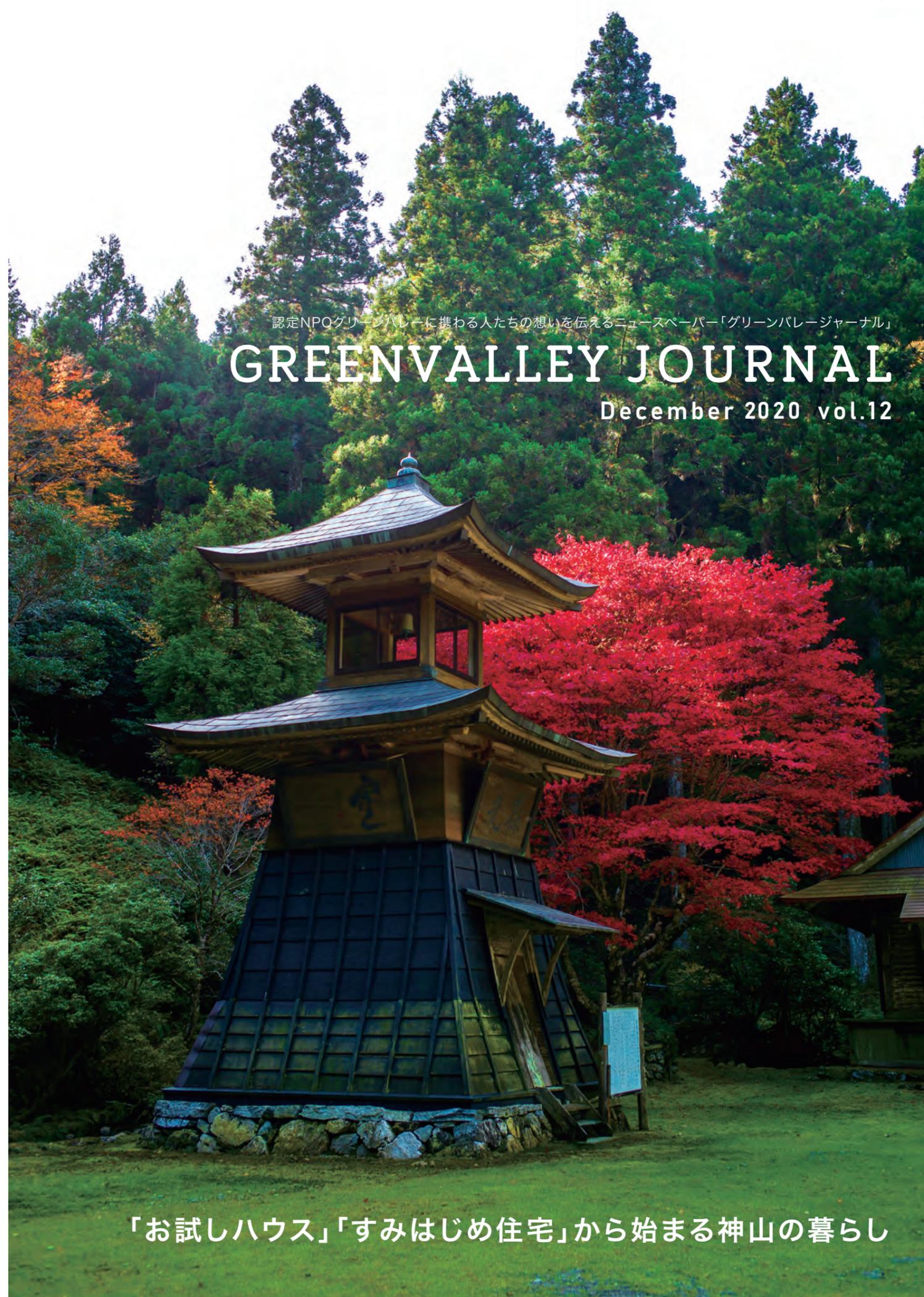
これからの季節、靴が鳴らす枯葉の音とともに木の観察をこの本をお供にご家族でお散歩してみたいかがでしょうか？きっと春が待ち遠しくなります。



神山のサポートについて

グリーンバレーの活動は、皆様からのご支援によって支えられています。私達の活動趣旨にご賛同いただき、暖かいご支援をぜひお願いいたします。詳しくは以下のページをご覧ください。
<https://www.in-kamiyama.jp/donation-to-greenvalley>

発行/お問い合わせ
認定特定非営利活動法人グリーンバレー
<https://www.in-kamiyama.jp/npo-gv/>
MAIL: greenvalley@in-kamiyama.jp
〒771-3310 徳島県名西郡神山町神嶺字中津132
TEL: 088-676-1178
(編集：ニイチトセ)



認定NPOグリーンバレーに携わる人たちの想いを伝えるニューズペーパー「グリーンバレージャーナル」
GREENVALLEY JOURNAL
December 2020 vol.12

「お試しハウス」「すみはじめ住宅」から始まる神山の暮らし

「お試しハウス」「すみはじめ住宅」から始まる神山の暮らし



アットホームな雰囲気、座談会スタート

移住のプロセスは、家を探して契約して、改修工事をしてやっと引越して、また同時に仕事も試行錯誤する必要があり、一筋縄では行かないことが多いです。イメージ通りの物件が見つかるかどうかは、探してみないとわからない。仕事もうまく行くかどうかは、やってみないとわからない。神山に移住しても、うまく行かずに引越してしまう人も実際にいたりします。

「お試しハウス」や「すみはじめ住宅」は、とりあえず神山に住みながら、移住を進めたり、引き返したりもできる、階段の踊り場のような住まいとして運営しています。今回は利用者の中でも、今まさに移住を前向きに進めているお二人の体験談を紹介します。

座談会参加者
 <飯沼謙太さん>徳島県出身。去年12月から寄井の家に入居中
 <長井志保さん>愛媛県出身。今年3月から山川ハウスに入居中
 <伊藤友宏>奈良県出身。移住交流支援センター担当6年目
 <林大晟>徳島県出身。移住交流支援センター担当2年目



すみはじめ住宅「寄井の家」 撮影：生津勝隆

カウンセリングの仕事は神山でも続けるつもりで移住したのですが、気づいたらお手伝いで始めたMacos(配食サービス)の仕事が忙しくなっていて、カウンセリングが副業になっています。今はさらに狩猟を頑張ってみようと思っています。僕は実家がお肉屋さんで、もともとジビエには興味があったのです。何となく神山に住んでみたら、狩猟を学びやすい環境にいることに気づいて、これからは配食のお手伝いと狩猟を、半分ずつ仕事にしていきたいです。やりたいようにやっていったら自分が変化していったので、それでいいのかなと。

山川ハウスの暮らしはいかがですか？

長井：すっごく楽しいです！鮎喰川を眺めながら、毎朝外でお茶を飲んだり、食事したりしています。木の下に丸太が置いてあって、そこに板を置いて椅子にして、晴れの日はずいぶん気持ちいいですよ。山川ハウスは、動物がよく通るんですよ。ウサギ、ウリ坊、シカ。外でご飯を食べているとウサギが駆け寄ってきたり、ウリ坊も近くごはん食べていたりします。

をしている人はいないよ、つてすぐ言われて。勘違いで移住しちゃったけど、私の後にパーマカルチャーを実践する仲間が他にも引越してきてくれました。

※1「すみはじめ住宅」とは
 まちに住み始めながら、暮らしを考え、仕事を試み、人々との関係を育ててゆくための生活拠点。神山町の地方創生総合戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」の一環で改修された住宅を、一般社団法人神山つなぐ公社が運用する。

※2「お試しハウス」とは
 GVが2009年から運用する空き家を活用した賃貸物件、通称「山川ハウス」。家のつくりは簡素だが、川沿いの立地がアーティストやサテライトオフィス関係者、移住希望者からは概ね好評。水道は川からポンプで汲み上げているため、飲料水を確保できていないのが唯一の難点。

実際に暮らしてみてもうどうですか？

飯沼：寄井の家は、仮住まいにはちょうどいいですね。山あいの神山でコンビニまで歩いていける立地で、田舎の感じがしなくて、この便利さに慣れてしまうと、次に空き家を借りて引越した時に不便に感じてしんどいかもしれませんね。



お試しハウス「山川ハウス」

「すみはじめ住宅」「お試しハウス」に引越された経緯を教えてください。

飯沼：もともと徳島県出身で大学も徳島市だったので、県外に住んだことがありません。個人でカウンセラーをしていて、仕事もオンラインでできるからどこかに引越してみよう。神山のことはあまり知らなかったのですが、友だちに誘われてお店やイベントに遊びに来るうちに、こままい屋(苔庭のお店)のオディさんに「すみはじめ住宅」のことを教えてもらいました。

去年の12月ごろ、神山つなぐ公社に問い合わせしてすみはじめ住宅「寄井の家」を内覧させてもらいました。家具付き物件なので、自分の服さえ持っていけば、すぐに暮らせるかなと思って、迷わず引越することを決めました。住んでみてもしアカンかったら帰った方がいいわと。実際に引越してみたら、すごく居心地がいいです。

長井：転職で群馬県から徳島県に引越して来るかもしれないことになって、去年12月の、転職の面接の日に、神山に移住相談に来ました。すみはじめ住宅「西分の家」も内覧したのですが、その時は満室で、その次にお試しハウス「山川ハウス」を紹介してもらいました。引越して1年目は仕事に慣れるのが大変で、家のことはあまりできないだろうから、「山川ハウス」がちょうどいいと思いました。

もともと神山に住みたかったのですか？

長井：パーマカルチャーをやりたいだったので、山に住んでみたかったです。神山のことは何も知らなかったけど、「パーマカルチャー」を検索したらなぜか神山が出てきました。けど神山に来てみたら、別にパーマカルチャー

「暮らしながらの家さがし、家づくり」

徳島県神山町には、「お試しハウス」や「すみはじめ住宅」といった、神山への移住をサポートする住宅があります。実際に現在お試し移住をしながら、空き家を借りて改修工事、引越し準備をしている飯沼さん、長井さんにお話を伺いました。神山が「アーティスト・イン・レジデンス」で賑やかになる11月上旬、グリーンバレー(GV)が新しく運用を始めた起業家向けシェアハウス「森西ハウス」で、お鍋を囲みながらの座談会形式でお届けします。

特に不便は感じていない？水も飲んでいてと噂で聞きました。

長井：水も美味しく飲んでます。水道水と違って、消毒臭くないので。私はコンパクトな家が好きで、トイレの便座は暖かいし、お湯も出るので快適です。プライベートリバーがあったり、外も広々と使えるのがいいですね。秋口にスズメバチの巣ができたことはありましたが、ニコライさんが対処してくれました。

住みながらの家探しはどうでした？

飯沼：神山で暮らし始めて2〜3ヵ月過ぎて慣れてきた頃、1、2軒ずつ空き家を紹介してもらいはじめました。すみはじめ住宅は1年半の期限付きで契約していたので、早めに引越しが決まる方がいいだろうと思って。車移動なので立地にこだわりはありませんでしたが、家庭菜園ができるくらいの畑付きで、あとは水回りの状態の良さで家を決めました。すみはじめ住宅は神領地区で、家は阿川地区で借りることになったのですが、配食サービスのお手伝いしている間に阿川の距離感とかも把握できていたので、すんなり決めることができました。

長井：山川ハウスに住んだおかげで、岩丸さん※4とも知り合えて、私にぴったりなお家を紹介してもらえました。山の中の地域の家もいっぱい案内してもらったのですが、通勤のことを考えるとちょっとしんどそうだったので、結局は国道近くで家を借りることに決めました。今は週末過ごせる小屋を、山の中に建てたいと思っています。山小屋できたら、お試しハウスに使ってもらっていいですよ！

※3ニコライさん：河野公雄氏(神山町鬼籠野出身。「ニコライさん」はニックネーム)。GV発足時初期メンバー、後に事務局長(2011年〜2016年)。現在アドプトと森づくり担当でありKAIRの実行委員(GVジャーナル2020年5月号をご参照)

※4岩丸さん：岩丸潔氏(神山町神領在住)GV発足時初期メンバーで現在もGV理事。岩丸百貨店を営み、長年ボランティアで移住者支援を担当。(GVジャーナル2020年3月号をご参照)

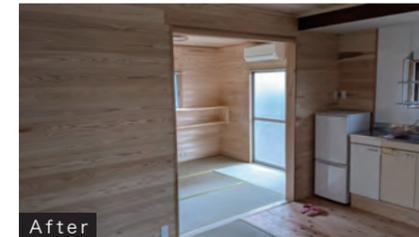
大工さんとの改修工事はどんな感じですか？

長井：2階は壁や柱を抜いて、一面スタジオにしてもらいました。ヨガもできるし、武術もできるし、他の教室もできると思います。あと私の身長に合わせてキッチンや洗面台の高さを上げてもらったり、大工さんが別の空き家で取り外した掘りこたつを、居間に入れてもらったりしました。この家に一生住むつもりですって大工さんに話したら、私がおばあちゃんになってつまづかないようにと、掘りこたつの中にコタツ用のコンセントを付けてくれて。私のリクエスト通り、床も壁も天井も杉にしてくれて、お風呂は湿気に強い赤身の杉材を使ってもらっていました。

飯沼：1階は高齢のおばあさんが1人暮らしできるようにリフォームされていたので、古いままだった2階部分を全面リフォームしました。雨戸の内側には障子しか



Before
台所は古い砂壁で、キッチンも低かったそう



After
開口部を大胆に変えて、杉壁で明るい印象に(長井邸)



Before
天井が低く、雨戸の内側は古い障子のまま



After
上り天井で空間を広く、古い染みもきれいな雰囲気(飯沼邸)

なかったのを窓を入れて、床を板間に張り直し、天井は低かったのを上り天井にしてもらいました。壁は左官屋さん塗り直してもらっています。見積りを相談した時には気づけなかった不具合も大工さんが気づいて修繕してくれていて、さすが職人さんだなと思っています。

僕の家は部屋から外廊下に出ないとトイレに行けない間取りになっていて、夏は虫が部屋の中に入りそうだったので、自分で蚊帳みたいなネットをつけようと思ったんです。工事の様子を見に行った時に大工さんに何気なく話していたら、次の日には蚊帳をつける木枠を作ってくれていました！



インタビューご協力ありがとうございました！

座談会を終えて

お二人ならではの、暮らしながらの家探し、物件改修エピソードでした。こだわりのリフォームが施されたお家で、神山暮らしを楽しんでください！

神山に暮らしはじめながら、仕事を試したり、家探しや物件改修ができる「お試しハウス」、「すみはじめ住宅」。アパートなど賃貸物件がほとんどない神山だから生まれた住まいのタイプなのかもしれません。一人でも多くの方が移住に踏み出せるよう、空き家を活用した賃貸物件をコツコツ増やしていきたいですね。座談会の会場に使わせていただいた「森西ハウス」について、裏表紙のGVニュースでご紹介しています！

移住支援担当のつぶやき

日々の相談業務では、神山の暮らし情報を電話やメール、現地案内で伝えるよう努めていますが、私たちが一方的に伝える情報だけでは、コミュニケーションに限界がある気がしています。私たちが神山や空き家を売り込む不動産屋さんのセールス側で、相談者はお客さんみたいな関係性になりやすい。移住フェアはその典型かもしれません。

「お試しハウス」や「すみはじめ住宅」の利用者は、同じように空き家を紹介しても、彼らが暮らしながら得た生の情報をもとにフィードバックしてくれて、双方向のコミュニケーションが成り立ちます。契約の打合せをするにしても、大工さんと打合せするにしても、話し合いがスムーズにまとまりやすい気がします。神山らしい移住のあり方として、これからも提案していきたいですね。(GV伊藤)